

川と人

Vol.27
2005



特集

創成川 ～昨日・今日・明日～

PHOTO:
豊平川支流・穴の川(札幌市)2005年
「こども記者団」



カワヤツメのとでもめずらしい産卵風景 撮影:妹尾優二

保全がもとめられるヤツメ文化

【カワヤツメ】ヤツメウナギ科

目とエラ穴が7つ連なり、8つに見えることから「ヤツメウナギ」と呼ばれています。カワヤツメは体長約50～60cm、下アゴがなく口は吸盤状。脊椎動物の中では最も原始的な種類で、石狩川本川や千歳川、夕張川など流域に広く分布。川で生まれた幼生はアンモシーテスと呼ばれ、変態して成体になると海へ。海では他の魚に吸いついては体液を吸って栄養にします。産卵期にふたたび川を遡上し、中流の砂礫底に産卵します。カワヤツメによく似たスナヤツメは海に下りません。カワヤツメはビタミンAが豊富で食用・薬用に重宝され、目の疲れや体力回復に効く。北海道では開拓期、貴重な栄養源として当時の人々を支えてきたといわれます。石狩川では「ドウ」と呼ばれる高さ140cm程の釣り鐘状の漁具を使ったヤツメ漁が、明治時代からつづけられています。健康志向の高まりから、注文が途切れることはなく、蒲焼にすると美味。しかし近年、漁獲量は減り続け、石狩市は専門家や機関等の協力を得て、「石狩川ヤツメ文化保全再生事業」で本格的な調査をはじめています。資源の維持と回復のための増殖技術や管理手法の検討を行い、ヤツメ文化の保全と再生を目指します。

■北海道の食文化・ヤツメウナギを味わえる施設
江別河川防災ステーション
江別市大川通り6 TEL.011-381-9177

監修 北海道開発局
発行 (財)石狩川振興財団 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目5番地 Tel (011) 242-2242
平成17年10月 定価1,300円(消費税・送料込み)

ホームページアドレス <http://www.ishikari.or.jp/>

特集

創成川

今日

その川は、用水路として掘られ、
札幌中心部の東西の基点にされました。
鴨々川から茨戸川まで、
都心をまっすぐ北に流れる人工河川・創成川は、
時代、時代にもとめられ、働き続けた川です。
都心の発展とともに人々との
接点も失われつつあった創成川が、
生まれ変わろうとしています。

札幌都心再生の大きな柱となる創成川を、
今一度ふり返ってみたいと思います。



《札幌と創成川の概略》

- 1866 慶応 2年 大友亀太郎、御手作場を開き、大友堀開削
- 1869 明治 2年 開拓使が設置され蝦夷地を北海道と改称。島判官が札幌本府建設に着手
- 1870 3年 北6条から琴似川との合流点の寺尾堀開削。南3条から南7条間の吉田堀開削
- 1874 7年 豊平川堤防築造。豊平川取水口に鴨々水門設置、創成川命名
- 1882 15年 開拓使を廃止し札幌、函館、根室の3県を設置。札幌一幌内間に鉄道開通
- 1886 19年 3県が廃止され北海道庁設置。琴似新川(現創成川の麻布以北)開削
- 1887 20年 市街道路、下水の開削開始。琴似川小樽内川間大排水(新川)開削
- 1897 30年 札幌一茨戸間、花畔一銭函間運河竣工
- 1922 大正11年 市制施行(札幌、函館、小樽、旭川、室蘭、釧路)
- 1950 昭和25年 第1回札幌雪まつり開催
- 1971 46年 創成川通り南北アンダーパス建設
- 1998 平成10年 創成川通アンダーパス連続化の都市計画決定

※参考資料:札幌市制要資料編/札幌市中央区一歴史の散歩道/広報さっぽろ北区分・北区エピソード史、
執北区エピソード史/大正9年の写真・北海道新聞1974.5.19朝刊全道/現在の創成川の写真・北海道新聞
2004.7.2朝刊全道

昨日

明日



川と人 Vol.27
2005

CONTENTS

特集! 創成川 昨日 今日 明日

- 札幌と創成川の概略.....2
- 北都・札幌とともに〜創成川の歴史.....3.4
- そして、明日へ〜生まれ変わる創成川通り.....5

世界河紀行.....6~8
ザンビア通信 第2弾
ビクトリア滝と野生の王国
在ザンビア日本国大使館 財津 知 亨氏

インタビュー.....9
汗と笑顔で10周年
石狩川下覧権 代表 北谷 武文さん

流域の現在.....10
【三笠市】三笠市立博物館
化石を通じた体験学習の構築へ

北海道開発局
地域協働プロジェクト2005
夏バージョンの展開について.....11.12

北海道開発局 石狩川開発建設部
石狩川水系 河川整備計画策定に向けた取り組み.....13.14

北海道開発局 旭川開発建設部
北海道遺産 天塩川テストツアー.....15

北海道
伏籠川総合治水対策特定河川事業の終了と
発寒川遊水地の完成.....16.17

札幌市
追分川の水辺空間整備.....18

旭川市
北の夏 一日どっぴり石狩川 探る・学ぶ・親しむ・遊ぶ.....19

トピックス
美浦渡船の休止と石狩川の渡船の歴史.....20.21
モエレ沼の環境と機能.....21

石狩川振興財団 活動報告
第3回 川の調べコンサート ミントチ祭り.....22
豊平川の上から下まで大取材! 2005子ども記者団.....22
編集後記.....22



札幌まつりの創成川畔仮設興行場。昭和34年まで続いた。
北海道新聞1955年6月16日



明治初期の札幌北部の河流と創成川開削の経緯
『石狩川舟運誌』(財)石狩川振興財団



一ノ村新堀川・大友堀(明治4年)北海道大学附属図書館蔵

大友亀太郎像

北都・札幌 とともに

■札幌のはじまり、大友堀

創成川は慶応2年、幕吏の大友亀太郎が御手作場(官営農場)をつくるため、用水路として掘られたのがはじまりです。南3条から一直線に北6条に至り、東北にのびてフシコサッポロ川へ。大友堀は本府建設の物資を運ぶ大動脈でした。

大友堀の注ぎ口があった場には、現在「大友公園」があります。公園内には大友堀を復元し、子どもが遊びながら郷土の歴史を学ぶことができます。隣り合う「札幌村郷土記念館」は、当時の札幌村元役場で、札幌村歴史研究会の3度にわたる大友堀発掘調査の内容や、大友堀に関する貴重な資料が展示されています。

大友亀太郎はわずか3カ月余りで札幌村の基礎を築きあげました。二宮尊徳の門下生で、「人の役に立つ開拓」を信条とした郷土が誇る報徳の人。わずか4年でこの地を去りますが、その功績は語り継がれ、情熱は受け継がれています。

■本府を支えた輸送水路

札幌本府が開かれると、大量に物資を運ぶための輸送水路が必要になりました。明治3年、開拓使は北6条から琴似川との合流地点と、南3条から南7条間を開削。これが創成川の原形といわれています。前者は寺尾秀次郎が運送を請負ったことから寺尾堀、後者は吉田茂八が開削に従事したことから吉田堀と呼ばれました。

豊平川からの取水口に鴨々水門が設置された明治7年、岩村通俊判官が「創成橋」と名づけたことが創成川の由来に。「市の中央を流るる小川を創成川といふ、うれしきなり」と、かの石川啄木が絶賛したといわれています。創成川はその後、明治19年に茨戸まで開削されました(琴似新川)。

■先駆者により排水運河に

明治25年、「琵琶湖疎水」の開削でその名が知れ渡った北垣國道が北海道長官に着任。さっそく排水を含めた重要事業を「十二年計画」としてまとめました。

石狩原野を農地として使うためには排水が不可欠でした。計画の多くは日清戦争の勃発で実行をみませんでした。一部は原野排水事業は行われ、その時開削された排水運河が「札幌・茨戸間運河」「花畔・銭函間運河」「幌向運河」「馬追運河」です。札幌・茨戸間運河は、創成川の downstream 部分を改修し、都心から石狩川(現茨戸川)まで花畔・銭函間運河は花畔から樽川、山口を通り銭函に通じるものでした。明治28年に着工し、30年に開通。

運河の設計を担当したのは、石狩川治水の祖・岡崎文吉です。岡崎は水位の高低差を少なくするため水量を調節する新しい方式の閘門を8カ所設けま



札幌村郷土記念館
札幌市東区北13条東16丁目 TEL011-782-2294



札幌本陣及び創成橋
(明治4年)北海道大学附属図書館蔵



市内に現存する最古の橋・創成橋。
欄干の擬宝珠、橋の下がアーチ型の趣ある名橋

運河には平田舟などが行き交い、戸側から2番目の閘門付近には神社もありました。お祭りには相撲、芝居、映画などが盛大に催され、人が集う川の社交場でした。

■創成川通りのにぎわい

明治初期、創成川通りには札幌本府建設に携わる職人や人夫などが多く、彼ら相手の商いが生まれました。二条市場、狸小路のはじまりです。創成川で馬を洗う人の姿も多く見られました。明治7年に札幌まつりが6月15日に定まると、南1条から三条橋までの川沿いに見せ物小屋やサーカス小屋が立ち並び、たくさんの人でこたえ返しました。年の瀬には、狸小路や二条市場に買い物客が溢れました。

時は流れ、札幌市が政令指定都市へ移行するのに伴い、創成川通りは幹線道路としての機能が求められるように、渋滞の緩和と札幌オリンピックの輸送路確保のため、昭和46年、南北二つのアンダーパスが建設され、創成川は人と分断されました。

そんな中でも、創成川を軸に都心の雄大な水と緑の空間創出を提唱する「創成川ルネサンス」や、「鴨々川を清流にする会」の清掃活動など、住民による息の長い活動が続けられています。いつの時代も創成川は、札幌市民の心の中を流れ続ける、特別な存在なのです。



ビクトリア滝と 野生の王国

ザンビア通信 第2弾

在ザンビア日本国大使館 二等書記官
財津 知亨



市内の博物館から見たビクトリア滝の水煙

「モシ・オ・トゥンヤ」
リビングストーンには北米のナイアガラ滝、南米のイグアス滝と並び、世界3大瀑布で有名な世界遺産「ビクトリア滝」があります。探検家リビングストーンが西欧人として初めてこの滝を見つけた、ビクトリア女王の名前を滝に与えました。現地名は「モシ・オ・トゥンヤ」といい、煙（モシ）と（オ）雷鳴（トゥンヤ）という意味で、リビングストーンも遠くから見える煙（滝壺から舞い上がる水煙）と轟音に驚いたと伝えられています。なるほどリビングストーン市内からでも遠くにある滝の水煙が良く見えます。

リビングストーン

ザンビアの首都ルサカの南西約500kmにリビングストーン市という街があります。リビングストーンはジンバブエとの国境に位置する街で、英国の探検家デイビッド・リビングストーンにちなんで名付けられました。このリビングストーンに僕は計8回訪れていますが、その時の体験談を今回はお伝えします。

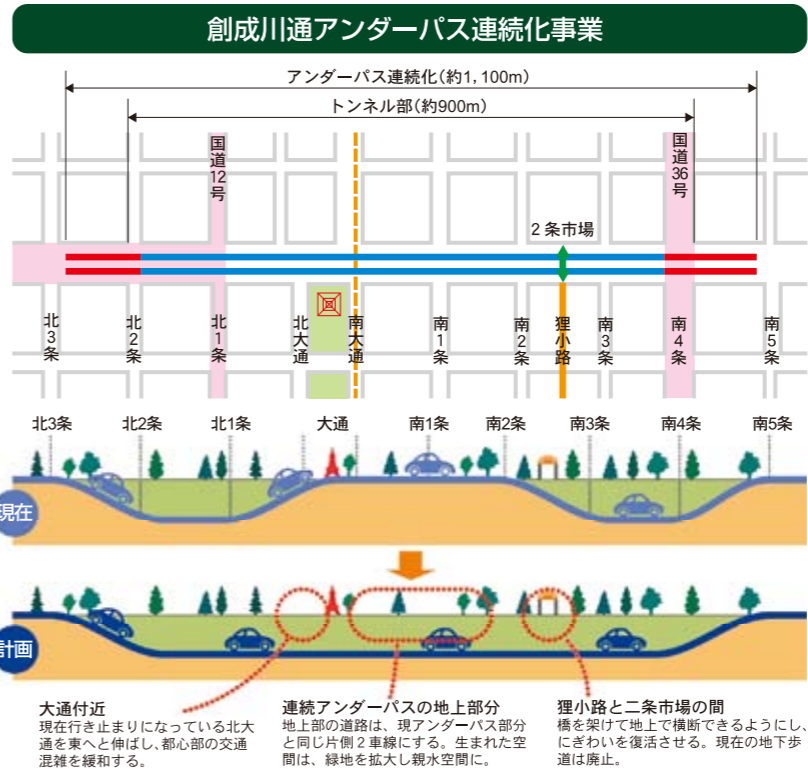
「昔の滝の跡」
ヘリコプターで滝を見学するツアーがあり、ホテルヘテックインする前に行ってきました。ビクトリア滝は約250万年前に形成され、その後、長い年月をかけて滝が大地を浸食し続け、滝は徐々に上流へ移動し、現在の位置まで後退したと言われています。空からでないかと思えることはできませんが、滝の下流には昔の滝の跡が幾重にも見ることが出来ます（デビルズ渓谷）。現在も流れ落ちる水は滝を削り続けており、数百年後にはさらに上流に滝が形成されるのです。自然の大きな力、造形を感じることができました。



乾期（5月〜10月）の後半には滝の上を歩ける



地元モシビールと庭師のムサジさん



創成川の再整備の基本方針～水が遊び、水で遊ぶ空間づくり～

空間デザイン～札幌の歴史を「つなぐ」～
●札幌の歴史を「つなぐ」
札幌の歴史を支えたとともに、市民生活の場として利用されてきた創成川の姿を残す
●市街地を「つなぐ」
創成川を挟んだ東西の市街地を結びつける場としての役割を持たせる
●軸として「つなぐ」
直線河川の空間的特徴と水と緑の要素を活かし、緑の軸、歩行者の軸をつくる

主要交差部のデザイン（案）
(1)大通との交差区間
札幌市発展の基点にふさわしいシンボリックな空間として、多くの人が集まる拠り所として、水という貴重な環境要素を持つ象徴的な広場の整備を検討する
(2)狸小路・二条市場との交差部
東西市街地の結びつきが最も期待される場所として、河道沿いを平坦にして歩行者が入れる空間をできるだけ広く確保するとともに、イベントなどに利用できる広場を設けることを検討する。



市民懇談会の参加者で結成された「創成川の賑わいを考える会」が主催したフォーラム

●詳しくは都心まちづくりのホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/index.htm>

そして、明日へ

■創成川通アンダーパス連続化事業
住民の熱い思いに込めるかのように、札幌市は第4次長期総合計画を受け「都心交通計画」を策定。札幌都心再生の骨格をなす事業として、「創成川通アンダーパス連続化事業」が組み込まれました。現在の南アンダーパスと北アンダーパスをつなげ、南5条から北3条まで地下道で連続化させることで、渋滞緩和と環境整備を同時に図るものです。

■都心再生によせる市民の期待
車を地下に通すことで、地上には空間が生まれます。この地上の環境整備を市民協働で考えようと、札幌市では平成15年から「創成川通市民懇談会」を設置。これまで13回開催され、300人以上の市民が参加。平成15年11月には、「市民1000人ワークショップ」が開かれ、700人が集うなど、関心の高さを証明しました。本年4月に策定された「緑を感じる都心の街並み形

成計画」に環境整備の考え方をまとめ、参加者との議論の中で指摘された課題の検討や合意形成に向け、17年度も懇談会を継続開催しています。さて創成川通りでは、10月から連続アンダーパスの本体構築工事がはじまりました。平成20年度にアンダーパスの供用開始、平成22年度までに地上環境整備の完成を目指します。「川と人」では、札幌都心の再生を担う「創成川通アンダーパス連続化事業」と「親水空間整備」の進捗状況について、これからもお伝えしていきます。

国立公園の中のホテルへ

リビングストン市はザンビア一の観光地であり、前回のモンクス市での宿泊のような情けない思いはほしくないです。みます（「川と人」第26号掲載）。とてもきれいで「ザンビア離れ」したホテルがビクトリア滝の脇に建っています。さらに、さすが野生の王国、ホテルの敷地内なのにサルやシマウマ、インパラ、キリンなどが闊歩しており、「ここは国立公園内。野生動物に餌を与えるな！危険！」という看板も立っています。



ホテル内で草を食むシマウマ



早朝、滝の水煙に映える虹

うやく意を決して一匹だけ皿に乗せて席に戻りました。食べた感想ですか？ゴムみたいな食感で味は良く分かりませんでした。

「朝の虹

朝、少し早く起き、ビクトリア滝を見に行きました。少し肌寒かったです。行って良かったです。朝日が滝の水煙に大きな虹を作っていたのです。滝の上にかかる虹はともきれいで感動的でした。ルナ・レインボーよりも鮮やかで美しいかもしれません。

「いよいよ滝へ

アフリカの雰囲気たっぷりのホテルから、直結している国立公園に入っていくとドドーッと滝の凄い音が聞こえてきます。滝から帰ってくる人を見ると皆、びしょびしょです。晴れているのにどしゃ降りの中を来たようです。じつは滝壺に落ちた水が上昇気流で舞い上がり、それが滝周辺に雨のように降り注いでいるのです。話には聞いていたので僕は雨合羽を持って行きました。さて、滝の対岸にある歩道を歩いていくと、もの凄いどしゃ降りです。雨合羽は持ってきたのにサンダルを忘れ、あつという間に靴がずぶぬれです（気持ち悪い。しくしく）。しかも水煙が凄すぎて対岸にあるはずの滝がほとんど見えません。滝が見えないうちに3大瀑布がどう凄いのかわからないじゃないか！という感じでした。凄さが分からないくらい凄いやというでしょう。



いたずらものサル達

「サルと戦うホテルマン

ホテルのレストランは中庭と仕切がなく、とても開放的な感じで、朝は肌寒いですが、新鮮な空気を吸いながら食べる朝食は格別です。良い気持ちで朝食を食べているとサルが中庭を散歩しているのが見えます。するとホテルのガードマンが追いかけて追い払うのです。別に気にならないから良いのと思えますが、それが彼の仕事のようにです。そのうち僕もあつちに行つたとか指さして教えてあげると、「あつちか？」と彼も指さし追いかける、という感じでサル追跡を手伝ってあげました。そうこうするうちに朝食を取る客も増えてきて、なんとサルも増えてきました。サルはレストランを取り囲むように歩いており、そしてついに勇氣のあるサルが老夫婦からパンを強奪したのである。こうなると他のサルも勢いづき、テーブルからテーブルへ飛び回り始めました。ガードマンはパチンコを取り出して小石のような物をサルめがけて飛ばしています。あの朝の静寂はどこへやらです。僕は食事を終えて



轟音とともに滝を削りつづける瀑布とザンビア深谷



ホテルにて民族楽器で迎えてくれるザンビア人と筆者



ザンベジ川の水神ニヤミニヤミのペンダント

「ニヤミニヤミ

滝見学の後、公園に隣接したお土産屋に行きました。多くの店が軒を連ね、木彫りの動物や銅細工、石細工などを売っています。その中に龍が回転しながら天に昇っている姿を形にした置物やペンダントがあります。「これは何？龍？」と聞くと「ニヤミニヤミだよ。ザンベジ川の水神様さ」とのこと。日本の川に水神伝説があるように、ザンベジ川にも水神がいるんだあと感じしました。

「緊張感たっぷりのサファリ

ビクトリア滝周辺には多くの国立公園があり、動物も豊富です。その中でも隣国ボツワナにあるチョベ国立公園はゾウの数が多くことで有名です。チョベ川はビクトリア滝よりも上流にあるザンベジ川の支流でゆったりとした流れです。このチョベ川沿いを車でサファリしました。このサファリカーですが、オープンカーです。肉食動物がいるのです。ドライバーが「ライオンやゾウがいても立ち上がったり、大声を出したり、車から降りたりしないように。車にじっとしている限りは車と同一として見えるので襲われること



5分先にいた百獣の王ライオン



ライオンが目の前にいるのに、オープンサファリカー

「ルナ・レインボー

満月の日には、滝の水煙に月が虹を作るルナ・レインボーという現象が見られるので友人達と夜の滝に行きました。公園スタッフから「7時半に来い」と言われたので7時半前に行くと、「月は8時半に出るから待ってろ」と言っています。なんで8時半に来いと言ってくれないの？とぶつぶつ言いながら1時間。「あんまり変わんないねえ」「かすかに赤、黄、青ってなっているけどねえ」「もう少し待てばクリアになるかなあ」ということでさらに30分。「もう変わらないんじゃない？」というだね。帰ろうか」ということで10時に引き上げました。なかなか見られるものではないので見ないと後悔してしまいが、見てもそれほど感動はないというのがその時の感想でしたが、後日、ルナ・レインボーの絵葉書を見つけた、もう少し待てばきれいな虹が見られたのでは、と今は思っています。

「キヤタピラを食べる

夕食はホテルのbuffetにしましたが、カレーや野菜炒めなどと並んで虫が置いてあります。カブト虫の幼虫のようなキヤタピラという虫を乾燥させ、塩と油で炒めたような感じでした。じつとその前に立って、長いこと考え、よ

はないです」と注意してくれました。いよいよサファリ開始です。ゾウ、カバ、ワニ、シマウマ、イボイノシシ、キリンなどを見た後に、ついにライオンに遭遇しました。満腹らしく日陰で横たわっています。車はどんだん近づき、5m程のところで止まりました。ライオンとの間に窓もなく、同じ空気を吸っています。何という緊張感。息を殺し、じつとしながら、でも写真は撮ってきました。

「人類発祥の地、豊かなる大地

なにかと暗いイメージの多いアフリカですが、実際に暮らしてみるとじつに豊かで、懐が深く、ここには書ききれない様々な体験をさせてくれます。一度アフリカの水を飲んだ人は再びアフリカに帰ってくると言われていますが、僕もその1人になったのかもしれない。





interview



石狩川下覧権 代表
北谷 武文さん

石狩川下覧権事務局
●奈井江町字奈井江211 TEL.0125-65-2341
●石狩川下覧権川下り IN 石狩川 / 毎年7月開催予定

楽しくなければ川下りじゃない！ 汗と笑顔で10周年 石狩川下覧権

10年で変わったもの

「と にかく、ぼくらが楽しまなげや10回も続かなかったよ。石狩川流域といっても、まちの端を流れてたりすると愛着も湧かないし、温度差を感じることもある。でも、毎年少しずつ、参加したり応援してくれるまちが増えているのはうれしいね。10年前と比べて変わったのは石狩川の水量だね。かなり減っていて、向こう岸まで渡って歩けるほど。でも水質はきれいになったよ。むかしの石狩川は真っ黒で濁々と流れてた。独特のニオイもあって、みんな石狩川を使ってきた。これだけの石狩平野を築いたんだもの、清流のわけがない」

さよごまな出会い

「川 下りには上は70代から下は6カ月まで、いろんな人が参加してくれた。今年、リピーターの親子にスタッフが、「子どもが」ずいぶん大きくなつたね」と声をかけたらすごく喜ばれてね。いい交流をしてるね。」

第1回目に阪神淡路大震災の被災者夫婦が参加してくれたことも忘れられないな。支援ありがとう。がんばっています」という彼らなりのメッセージだった。

川下りは自然相手だから、毎回天気との戦いだよ。雨が降ると水位はどうか、みんなで空を眺めて一喜一憂して。1日目は大丈夫だったけど、2日目が中止だったり、その反対もあった。細心の注意を払い、10年間で人が人を出したことはないよ。川に投げ出されたり、ひっくり返ったことは数え切れないけどね(笑)」



個性豊かな手作りイカダ、カヌーが混在するのが下覧権流

これからの下覧権

「最 近は川塾を活動に加えた。夏は川に入って魚や生き物にふれ、冬は砂川オアシスパークでワカサギ釣りをする。今年は滝川市と合同で実施したんだ。川の環境教育への活用の起点になってくれればいいと思う。」

思い返せば、いろんな人の苦勞や協力があってここまでできた。20年、30年続けることが目的じゃないが、感謝を込めて健康なうちに地域の役に立ちたい。下覧権内部の課題としては、次のリーダーを育てなきゃならないことかな(笑)」

流域の現在 三笠市



歴史が宿るはじまりの地

豊 かな森と水に恵まれた三笠市は、じつに興味深いまちです。明治元年、幌内で石炭層が発見され開坑すると、石炭を輸送する幌内鉄道が北海道初、全国で3番目の早さで開通されました。炭鉱街で歌われた「べつちよ節」は北海盆唄のはじまりでもあります。

三笠市立博物館

三笠市幾春別錦町1丁目212-1
TEL.01267-6-7545
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/kankou/shisetu/06hakubutu.html



特有遺産を生かす

桂 沢湖に向かう途中に三笠市立博物館があります。特大のアンモナイトがごろごろと所狭しと並ぶ。その数1,000点以上。じかに化石に触れることができます。化石ファーンには憧れの場です。博物館ではもっと幅広い層に化石に親しんでもらうため、10年程前から「自然観察講座」を毎年夏に開催しています。

二枚貝観察とアンモナイト観察をそれぞれ開催し、札幌や道外からの参加希望もあり、あつと言う間に定員に達する人気ぶり。アンモナイト観察では、幾春別川上流に出向き、化石が入っているような岩を探し、ハンマーで割って、クリーニングする一連の作業を体験します。化石を通して子ども達にもものを見る目、考えること、ひいては生きる力の育みにつなげることが狙いです。

じぎのステップへ

好 評な自然観察講座ですが、単発で終わってしまうのも事実です。また、化石に関して住民を巻き込んだ広がり発展していかない点も今後の課題。

今年から、三笠市内の一部学校では小中一貫教育がはじまりました。小学5年の総合的学習の時間のテーマは化石です。まだはじまったばかりですが、博物館と学校が連携し、住民も参加した形でステップアップしていく学習の素地が育まれました。いろいろなもの発祥の地である三笠の、化石を生かしたロマン溢れる体験学習に、期待はふくらむばかりです。

化石を通じた体験学習の構築へ

そして遡ること1億数千年前、あの生き物達がこの地の主でした。三笠市は質量とも最高の、世界に名だたるアンモナイト化石の産地なのです。化石王国を物語る逸話として、大きなアンモナイトを飾っている家も少なくないとか。三笠層と呼ばれる地層からは、めずらしい白亜紀二枚貝もたくさん見つっています。



mikasa city museum



北海道開発局

創ろう!育てよう!魅力ある北海道 【夏バージョン】の展開について

テーマ2 「北海道観光の魅力UP」【20プロジェクト(景観2含む)】

豊かな自然、明瞭な四季や雪など北海道の資源、また特に景観を活かした観光への取り組みを強化します。

9. 北海道遺産「天塩川」を活用した地域振興

【背景】
天塩川流域内の市町村では、地域活性化の具体目標として地域産業の振興とともに交流人口の増加、観光の発展が期待されている。

【ねらい】
北海道遺産「天塩川」を軸とし、流域の資源、既存関連施設等を活用した観光開発と地域振興策について検討する。



関係機関の協働により作成したパンフ



毎年開催されるカヌーツアー



天塩川の名前の由来となったテッセン

テーマ3 「公共施設の多様な利用」【17プロジェクト】

港湾・漁港の屋根付公共施設をイベント会場に活用するなど、多くの人々が多様な形で公共施設を利用できるような体制を目指します。

9. 河川を活かしたサイクリングネットワーク

～標津町の観光拠点を回遊するためのサイクリングロードを形成～



【背景】
地域に分散している観光資源と不十分なネットワーク

【ねらい】
観光拠点を堤防の管理用道路等で結び地域観光促進に貢献

展開イメージ

- 次世代に引き継ぎたい北海道の宝物のひとつとして「天塩川」が北海道遺産に選定されました。北海道開発局では、北海道、地元観光協会等と協働して、天塩川を観光や教育などの資源として安全に活用することにより、地域づくりの新たな取り組み、活性化に結びつくよう支援します。
- 地域関係者および観光関連事業者等と連携してテストツアーを実施し、天塩川を安全に活用するための方策や観光開発の可能性等について探ります。
- 沿川の自然、歴史などの魅力と、観光資源を紹介するガイドツールの作成。

これまでの取り組み

- 平成14年 7月 天塩川新聞を創刊
- 平成16年 7月 天塩川流域ガイド発行
- 平成16年10月 北海道遺産に選定される
- 平成16年11月 朔北の大河「天塩川展」開催
- 平成17年 4月 各地の北海道遺産と連携したパネル展の開催

展開イメージ

- 堤防の管理用道路等を活用したサイクリングロードを形成し、サーモンパークや桜づつみ公園、また、現在整備中の標津マリンプラザ等の観光資源を活かすネットワーク化を図ります。
- 河道掘削残土を活用して小堤防を設置し、その上をサイクリングロードや散策路等として活用し、市街化計画地域から川辺へのアクセスを容易にします。
- 次年度には小堤防で地域住民との植樹会を実施し、緑豊かな周辺環境の形成を図るとともに、案内看板等の施設を整備し、地域観光促進に貢献します。

これまでの取り組み

- 堤防および管理用道路の整備
- 桜づつみ公園などを観光や住民の憩いの場として提供

展開イメージ

- 北海道開発局では、札幌市（豊平川・新川）洪水危機管理協議会と連携し、新たに「水災に強い地域づくりモニター」を募集し、「自助」「共助」といった地域の水災防止力の向上を支援します。
- 現在、モニターとして20名（男性15名、女性5名）が登録、災害時の居住地周辺の浸水状況の監視や住民への避難情報の伝達、平常時からの防災知識の普及等の活動を支援・推進するため、モニター会議および研修会に参加しています。
- 今後も、地域の自助・共助体制と防災関係機関が連携を図り、地域の防災力の再構築に向けた支援を図ります。

これまでの取り組み

- 洪水危機管理シンポジウム開催（H16.7.24）
■場所：札幌コンベンションセンター ■主催：札幌市（豊平川・新川）洪水危機管理協議会
- 札幌市洪水ハザードマップ配付（H16.7）
中央区、北区、東区、白石区、豊平区、西区、厚別区、手稲区

1 地域協働プロジェクト2005のポイント

- (1) 「景観」に関する重点的な取り組み
周辺環境と調和した景観は人々に心の潤いと安らぎを与え、「美しい国づくり政策大綱」の策定（H15.7.11）や景観法の全面施行（H17.6.1）等、景観行政も近年変化している状況を踏まえ、景観に関するプロジェクトに関して重点的に取り組みます。
- (2) より地域に密着した、顔の見える開発行政の展開
平成16年度は186市町村（夏31プロジェクト、164市町村、冬17プロジェクト、135市町村）と協働し、本年度夏バージョンは新規を入れた全54プロジェクトに取り組みます。また、アンケート結果等を踏まえ、「開催地域の拡大」「開催期間の延長」「参加団体の拡充」などに努めます。

地域協働プロジェクト2005【夏バージョン】全54プロジェクト一覧

テーマ1 国民に健康な食を提供 信頼できる北の大地から

- 1 減農薬米生産の支援
- 2 農山漁村の生きもの調査
- (3) 堤防の刈草を活用した循環型農業の支援
- (4) 地域の方々や協働し「みどり豊かな地域づくり」を支援します
- (5) 自然環境と共生した農業・農村をめざします
- 6 農産物直売所マップづくり
- (7) 「安全安心お魚通信」の発行

テーマ2 北海道観光の魅力UP

- 1 「わが村は美しくー北海道」運動
- (2) 恵庭市「道と川の駅（仮称）」の展開
- (3) バスガイドさん達と協働した「道路ガイドブック」づくり
- (4) 道の駅「望羊中山」に隣接する写真美術館におけるパネル写真の共同展示
- 5 札幌国道50周年記念事業
- (6) 旭川動物園へのアクセス向上による「旭川観光の魅力UP」
- (7) エコミュージアム統一サイン計画
- 8 阿寒湖温泉街における交通システム改善
- (9) 北海道遺産「天塩川」を活用した地域振興
- (10) 釧路港舟漕ぎ大会
- 11 「船の駅」と「道の駅」の連携
- 12 土木遺産小樽港北防波堤の活用
- 13 ビューポイント駐車場の整備 <景観>
- 14 花いっぱい道 ～千歳エアポート花ロード
- 15 道路沿道景観の通信簿 <景観>
- (16) 札幌近郊 花めぐりスタンプラリー
- (17) フラワーガイドボランティア
- (18) みなとウォークラリーの開催
- (19) 漁港や漁業の体験学習を通じた地域振興
- 20 地域と一体となった道路情報の提供

テーマ3 公共施設の多様な利用

- 1 国道の除雪ステーション等を活用した地域振興
- (2) 石狩川愛別頭首工を地域のシンボル空間に
- (3) 農業水利施設等を活用して地域振興を支援します
- 4 河川広報施設を活用した地域交流とネットワークの形成
- (5) 緩やかな堤防面の採草・放牧地への活用検討
- 6 港湾・漁港の防風・防雪施設等を活用したイベントの開催
- (7) みなとクイズラリーの開催
- 8 市民主催のイベント開催による親水型港湾施設の有効活用
- (9) 河川を活かしたサイクリングネットワーク
- (10) 農業水利施設を利用して環境教育を支援します
- (11) 光ファイバーケーブルを活用した地域イントラネット整備
- 12 釧路港フラワーポート事業（市民の方々による植栽）
- 13 北海道開発がわかる資料館の活用（道路情報館）
- (14) 新水路の水辺空間を活用した十勝エコロジーパーク計画の推進
- 15 地域と連携した赤松並木の保護
- (16) 産官学が連携したエネルギー自立型ゼロエミッションタウン
- (17) 地域と連携した函館インターチェンジの活用

テーマ4 地域との協働による危機管理体制づくり

- (1) 火山噴火に備えた防災体制・防災力向上を支援
- (2) 大規模水害を想定した危機管理演習の実施
- (3) 「水災に強い地域づくりモニター」の活動を支援
- (4) 河川災害情報普及支援室による地域の防災力向上支援
- 5 地震・津波を想定した危機管理演習の実施（ロールプレイング方式）
- (6) 防災情報の共有化
- (7) コミュニティFMを通じた防災情報の提供
- (8) トンネル供用に併せた地域共同防災訓練の実施
- (9) 地域の防災意識の向上 ※（ ）のついたものは新規
- 10 地域防災教育支援

2 「地域協働プロジェクト2005」のテーマについて

2005夏バージョンは、4つのテーマで各プロジェクトを実施しますが、ここでは河川事業に関連するプロジェクトを抜粋して紹介します。他プロジェクトについては、北海道開発局ホームページ（H17.7.8記者発表）をご覧ください。http://www.hkd.mlit.go.jp/

テーマ1 国民に健康な食を提供 信頼できる北の大地から【7プロジェクト】

北海道は農産物・水産物の供給基地という重要な役割があり、地域の方々や植林活動など「健全な土と水と豊かな自然」の創造への支援などに取り組みます。

3. 堤防の刈草を活用した循環型農業の構築～地域と協働した環境に優しい持続可能な循環型農業の構築～

展開イメージ

- 河川堤防を管理するために、毎年定期的に行われている堤防除草に伴う刈草を農家の利用する堆肥や敷草等に有効活用することにより、環境保全型農業を支援します。
- これにより、循環型社会の構築への一助となるとともに、焼却処分量の低減や費用の縮減が図られます。
- 今年度は、刈草の利用希望者に情報提供を広く行うとともに、利用者のニーズを把握するなど全道的に一層の展開を目指します。

【背景】
安全で安心できる農作物への期待の高まり

【ねらい】
地域と協働した持続可能な環境保全型農業の支援。維持管理費の低減

これまでの取り組み

- 後志利別川の downstream 下流せたな町では、有機栽培等推進奨励補助制度を導入するとともに、平成16年3月に「有機酪農と有機農業の推進特区」の認定を受けるなど有機農業を推進。このため、平成16年度より堤防約20万㎡の刈草を提供開始。
- 釧路川等でも酪農家など地域の方々や協働し、堤防の刈草を農家の敷草等として有効活用。

北海道開発局は、平成16年度から開始した「地域協働プロジェクト」を、平成17年度も継続実施します。このプロジェクトは、北海道開発局が実施する社会資本整備はもとより、既存施設や知恵・経験・技術などすべて

てを提供し、職員一丸となって、地域の人々と協働して活気ある住みやすい北海道らしい地域社会を実現する方策を進めるもので、平成16年度は約6千人が参加しました。



●堤防刈草の提供
●地域による除草廃材の堆肥化
●安全・安心・良質な農作物、酪農敷草等への利用



3 プロジェクトの実施

各プロジェクトは、担当する開発建設部から実施に先立って報道発表等による公表を予定しています。

北海道開発局 石狩川開発建設部

石狩川水系における河川整備計画

平成9年（1997年）に改正された河川法では、新たに河川環境の整備と保全が位置づけられ、治水・利水・環境の総合的な河川制度の整備がなされた。

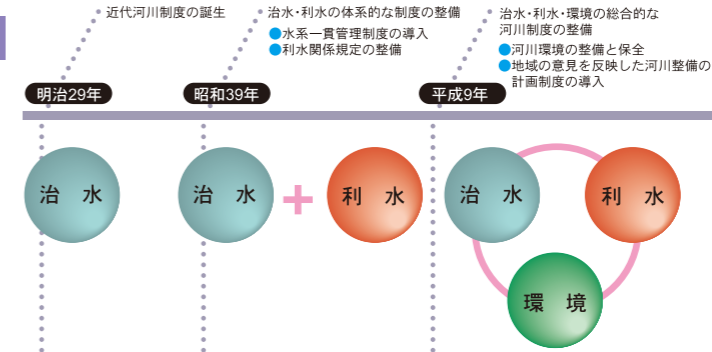
また、地域の意見を反映した計画制度が導入され、基本方針、基本高水、計画高水流量等を定める「河川整備基本方針」と河川工事、河川の維持の内容を定める「河川整備計画」を策定することになりました。この河川法改正をうけ、全国の河川で「河川整備基本方針」および「河川整備計画」の策定

に向けた取り組みが進められています。石狩川水系も、平成16年6月「石狩川水系河川整備基本方針」が決定され、現在、「河川整備計画」の策定が進められています。

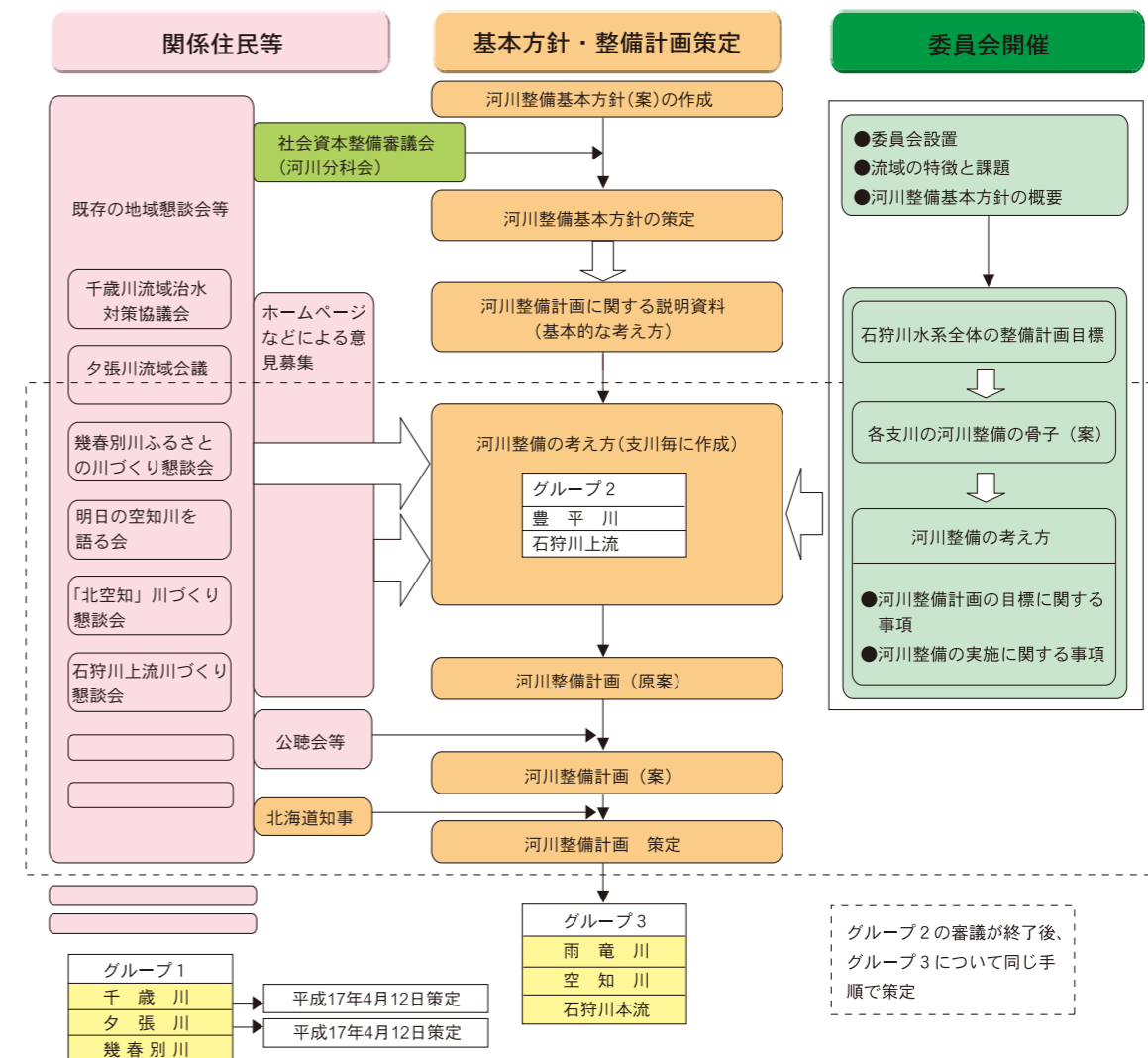
流域みんなが参加する 将来の川づくり

石狩川水系 河川整備計画策定に向けた取り組み

河川法改正の流れ



石狩川水系河川整備計画策定の流れ



さまざまな分野の学識経験者で構成され、これまで15回の委員会を開催し、石狩川全体の河川整備計画策定の方針、方向性、目標の考え方などを議論したうえで、各支川毎に具体的な河川整備の内容に関する議論を行っています。

石狩川流域委員会

「河川整備計画」は、河川整備基本方針に基づき、今後20～30年の具体的な河川整備に関する事項を定めるもので、学識経験者の意見を聴くとともに、関係住民の意見を反映させながら策定します。

石狩川は大きな支川を抱える大河川であることから、一度に議論することがむずかしいために、石狩川のおもな支川を3つのグループに分け、支川毎に河川整備計画の策定作業を進めることにしました。

具体的には、学識経験者の意見を反映する場として、「石狩川流域委員会」を平成16年4月に設置しました。石狩川流域委員会は石狩川に造詣が深い



石狩川流域委員会ニュース

これまでに夕張川、千歳川、幾春別川の議論を終え、現在豊平川について活発な議論がなされています。また、流域委員会では各河川の現地調査も実施しています。流域委員会での議論はその都度「石狩川流域委員会ニュース」にまとめ、石狩川開発建設部、各河川事務所等で配布するとともに、ホームページにおいても公開しています。

石狩川における河川整備計画の策定

各支川毎の河川整備計画については、流域委員会の議論を経て、河川整備計画の原案が作成されます。つぎに、河川整備計画に関係住民の意見を反映させるため、原案をホームページで公開するとともに関係自治体で縦覧を行い、住民からの意見を募集します。さらに、公聴会を通じて関係住民の意見を聴き、河川整備計画(案)が作成されます。こうして地域の意見を取り入れた河川整備計画(案)は、北海道知事の意見を聴き「河川整備計画」になります。



お問い合わせは 国土交通省北海道開発局石狩川開発建設部 TEL 011-621-1541



石狩川水系河川整備計画策定に向けたグループ

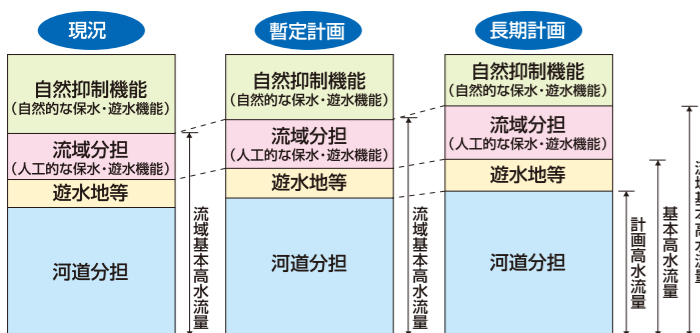
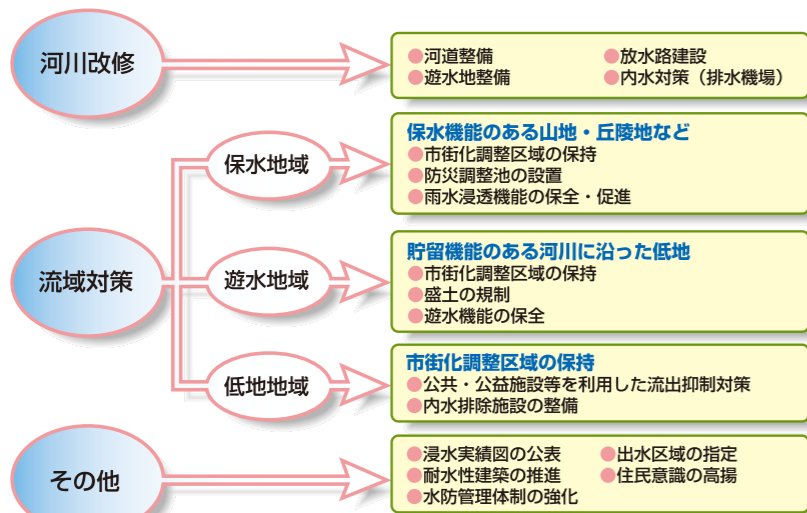
- グループ1: 千歳川、夕張川、幾春別川
- グループ2: 豊平川、石狩川上流
- グループ3: 雨竜川、空知川、石狩川本川

※赤字は策定済

北海道(1)

北海道開発局 旭川開発建設部

総合治水の体系



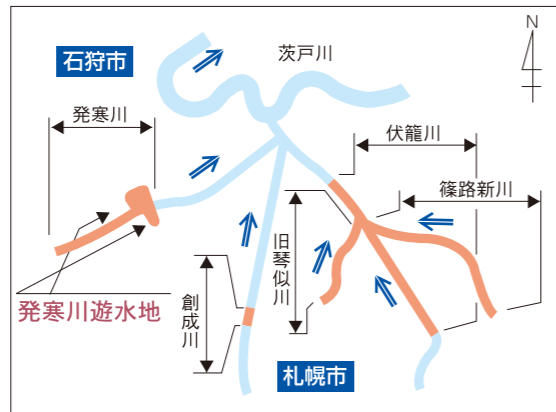
〔流域開発の想定〕
 ●暫定計画：流域の59%が市街地になると想定
 ●長期計画：流域の84%が市街地になると想定(農地・緑地等を除く)

北海道では、昭和54年度から伏籠川総合治水対策特定河川事業に着手し、流域整備計画にもとづいた暫定計画(確率1/10の降雨)に対して、洪水を安全に流下させる施設整備のため、流域開発および下水道計画などと調整しつつ、伏籠川流域内の伏籠川、創成川、発寒川、篠路新川の、河道の拡幅・堤防の新設、また、旧琴似川の河道の拡幅放水路建設など、各河川の河道整備を行いました。

さらに発寒川では、洪水を一時貯留し下流の洪水被害を防止・軽減させる発寒川遊水地を整備し、平成16年度に当事業を終了しています。次ページへ



伏籠川、篠路新川、旧琴似川の現況(市街地が進展している)



伏籠川	L=4.4km
創成川	L=0.7km
発寒川	L=2.6km
篠路新川	L=4.9km
旧琴似川	L=2.5km
(内放水路)	L=1.2km
事業費	約128億円

伏籠川は、発展著しい札幌市北部と石狩市を流域とし、近年、宅地化による人口増加が顕著な地域を流れる一級河川です。

流域内の急激な市街化の進展により、

降雨時の保水・遊水機能が低下したり、流出量が増大するなど、洪水に対する安全確保がむずかしいことから、雨水の処理に対する抜本的な対策が必要でした。

このような背景のもと、北海道開発局、北海道、札幌市、石狩市(当時)による「伏籠川流域総合治水対策協議会」が組織され、雨水の処理を暫定的・長期的な視点から、適切に河道整備や遊水地整備などの河川改修、適正な土地利用を図る流域対策などで分担する「伏籠川流域整備計画」が策定されました。



伏籠川流域浸水状況(昭和56年8月)

伏籠川総合治水 対策特定河川事業 終了と発寒川遊水地の完成

水害に強い快適なまちづくり

その後、市街地率は想定を上回り、今後も長期的に高い開発動向が予測されたため、流域関係機関の合意のもと、新たに「伏籠川新流域整備計画」が策定されました。

ダイナミックな天塩川体験型観光を探る

北海道遺産 天塩川テストツアー 9月6日(火)~7日(水)

北海道遺産・天塩川テストツアー行程

- 《1日目》
- 士別市・川西地区の丘 マウンテンバイク体験
 - 士別市・めん羊牧場 ジンギスカン食べ比べ、シーブドックショー見学
 - 風連町・天塩川河川緑地公園 パークゴルフ体験
 - 名寄市・智恵文の丘 田園風景(夏はひまわり畑)
 - 美深町・びふかアイランド カヌー・ラフティング体験、チョウザメ料理、宿泊
- 《2日目》
- 美深町・びふかアイランド 熱気球体験、チョウザメ館見学
 - 音威子府村・エコミュージアム おさしまセンター アイヌ彫刻家・砂澤ビッキ 作品鑑賞
 - 音威子府村・北大中川研究林 徒歩と四輪駆動車で森林探索
 - 音威子府村・北海道命名の地 松浦武四郎命名ゆかりの地見学
 - 中川町・エコミュージアム センター 化石群鑑賞



びふかアイランドから 恩根内大橋までをカヌー下り。 テッシ越えはスリル満点!



チョウザメ館にて、こんなに大きな魚が天塩川に棲んでいたのか



「あそびがお茶がつくれる 北限地点なのかも」

爽快、マウンテンバイク&カヌー! 歴史にふれ、郷土料理に舌鼓をうった2日間



士別市の美しい丘をマウンテンバイクで天塩川を眺めながら駆け下りる



「羊と雲の丘」で昼食 士別のジンギスカンは肉の旨みがかんたう



音威子府村に移住した砂澤ビッキの作品は 観光客の興味を集めるだらうね

北海道開発局では、地域の人々とともに地域の自立を目指した開発行政を推進する「地域協働プロジェクト」を、平成16年度から実施しています(11・12P参照)。天塩川テストツアーは「北海道観光の魅力UP」というテーマの展開方策のひとつで、天塩川を安全に観光や教育の資源として活用することで活性化にむすびつくよう支援するものです。

テストツアーは流域自治体と協力しながらプランを組み、道内外の観光事業者等とつしよに巡りました。雄大な自然の爽快感も手伝って、参加者の立場を越えた連帯感を育み、楽しみながら天塩川の観光開発について話し合うことができました。

ツアー終了後、観光事業者にはヒアリングを実施しました。観光のプロが見た天塩川の魅力、体験型観光として商品化するための課題など、今後継続的に事業を確立するための貴重な情報が得られました。

- ☆体験型観光として改善が望まれる点 ※抜粋
- *質を備えた大規模な宿泊施設がない。
 - *お土産を売る場所が少ないのはさみしい。
 - *カヌーガイドは、お客様のニーズに合わせて動植物や歴史の話ができる必要がある。
 - *川下りの場所と宿泊施設が近いと、川下りしないお客様や、雨天時の待機場所として利用できる。
 - *「北海道命名の地」は魅力的だが、船やカヌーでしか到達できない場にしたほうが感動が高まる。
 - *官と民が連携できる仕組みを考えれば、ツアーを成立しやすくなる。
- ★観光のプロが見た天塩川流域の魅力 ※抜粋
- *びふか温泉、カヌー、砂澤ビッキ、北大研究林、北海道命名の地など、すぐにツアーとして検討したい。
 - *どこを回っても、天塩川の存在が感じられ関心した。
 - *カヌー2艘の連結方式に感心した。これなら家族向けに安心して提供できる。
 - *士別川西地区は美瑛に匹敵する景観。漕ぎながら風景を感じるMTBはとてもよかった。
 - *「日本で唯一、北上する大河」という紹介が印象的で、天塩川を北上しながら、変化をみていくコースは面白い。



改修前の状況
追分川は、JR函館本線から国道5号間の1.5km区間の河川改修によって、護岸の法面は積ブロック、河床はコンクリートの三面張り直線的な水路になっていました。このため川には

瀬や淵など変化をつけて魚が棲みやすい川へ



整備前の追分川



緩やかな緑の傾斜に階段と水際に散策路を設け、近づきやすいように



地域と密に話し合いながら、まちの風景にとけ込んだ、地域に親しまれる川づくりに取り組んでいきます。

札幌市

追分川の流れ

新川水系追分川は札幌市の西部に位置し、西区と手稲区との境界付近を北へ流れる流域面積0.88km²、流路延長1.7kmの準用河川です。閑静な住宅街を流れるその流れは国道5号の約150m上流に位置する中の川からの分水を源を発し、追分通を横断後、西宮の沢土地区画整理事業区域内を流下して、JR函館本線横断部で旧中の川に合流します。(下図参照)



地域の人々が植えた色とりどりの花

北海道(2)

発寒川遊水地の完成

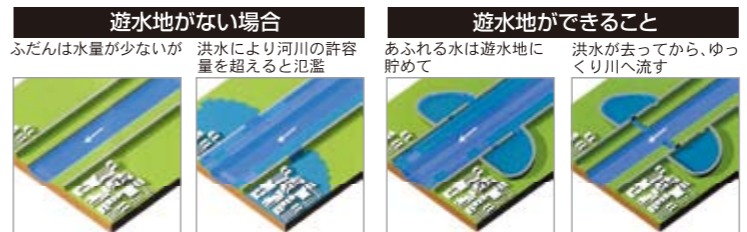
発寒川は、札幌市と石狩市の境界を流れる流域面積約25km²、流路延長約6kmの河川です。
流域は低平地で都市化が進み、河床勾配も1/2700と緩いため、台風時や融雪時にはしばしば浸水被害が発生し、昭和50年8月には浸水面積480ha、浸水家屋297戸、とくに昭和56年8月には浸水面積990ha、浸水家屋1043戸にもおよび大きな被害が発生しています。
このため、発寒川周辺の洪水被害の防止軽減を図ることを目的に、河道の拡幅や堤防の新設などの河川整備とあわせて、洪水を一時貯留させる発寒川遊水地の整備を計画しました。



↑発寒川遊水地の現況(左岸が石狩市、右岸が札幌市)

《発寒川遊水地の仕組み》

発寒川遊水地は、札幌市側と石狩市側の低平地を堤防で囲み、発寒川に洪水が流れる際、越流堤から遊水地へ水を導入し、樋門のゲートを閉めて一時的に遊水地内に貯めます。これで、下流に流れる洪水の流量が減るので、下流域の洪水被害が防止・軽減されます。なお、遊水地に貯まった水は、洪水がおさまった後、ゲートを開いてゆっくりと発寒川に流します。



遊水地の整備は伏籠川総合治水対策特定河川事業により実施し、札幌市側と石狩市側にあわせて4万m³の洪水を貯留させるため、平成10年度から遊水地内の土砂の掘削等を開始し、洪水を遊水地に導入するための越流堤の整備や、ゲート操作により洪水を貯留させ、洪水がおさまった後には水を安全に川に戻すための樋門等の整備を行いました。
また、あわせて安全対策として、警報発令などの気象情報や水位などの河川情報を知らせる情報板や、洪水が遊水地に流れることを知らせるサイレンなどを設置して、平成16年度、完成しました。

自然と歴史にふれあう空間

発寒川遊水地に隣接する防風林は、鳥類の重要な生息環境になっているため、遊水地整備の対象とすることなく保全しました。
整備に先立ち、遺跡の発掘調査を実施したところ、石狩市側の遊水地に約4千年前の縄文時代のたくさんの木製品や、サケ・マスなどの漁労の遺構が全国で初めて発見されました。この紅葉山49号遺跡は、未解明だった漁労を中心とする縄文文化の解明に大きな役割を果たしました。



縄文土器作り教室(石狩市教育委員会主催)

発掘の状況(手前の木枠はサケ・マス捕獲施設)

また、今年の7月3日に石狩市側の遊水地では、発見された縄文時代の生活・文化・自然を感じ、体験できる学習の場として、「縄文土器作り教室」が開催されました。石狩市では今後も、土器づくりや石器づくり、縄文住居の再現など遺跡跡地を活用した体験メニューを計画しています。
遊水地内では、整備した散策路を散歩する住民の姿が見られるなど、治水と親水兼ねた空間が、地域に定着しつつあります。



縄文時代では最大級の舟形容器も出土された

地域の声をかたちに

このような状況下でも、追分川は住民による河川愛護活動が続けられるなど、地域に親しまれてきた川です。宮の沢中央町内会と追分川をきれいにする会は、追分川を安らぎと潤いを感じることのできる自然と親水性に配慮した河川につくりかえるよう、平成14年8月に、地域住民752名の署名を付して、本市河川課へ環境整備の要望書を提出しました。

これを契機に、本市では現在の河川敷地内で地域の人々が憩い、集うことのできる水辺空間の創出を目的に、平成15年度から2カ年、国道5号の下流側から追分通までの約350m区間の環境整備を実施しました。
まず右岸側のコンクリート護岸を撤去して、法面を緩やかな傾斜の芝生に。階段も設置して水辺に近づけるように

地域に親しまれる川づくり

追分川が自然豊かな川に生まれ変わると、花壇に季節の花を植えたり、草刈りやゴミ拾いなどの美化活動がこれまで以上に行われるようになりました。蝶やトンボなどが飛び交い、散策する人の姿も多く見られます。
本市では、今後も地域の意見を尊重するとともに、

旭川市

旭川市は、石狩川と多くの支流が合流し、豊かな自然に囲まれた川のまちです。「あさひかわ自然共生ネットワーク」では、7月30日（土）に、この「川」をテーマに、大人も子どもと一緒に楽しめるイベントとして「北の夏一日どっぴり石狩川」探る・学ぶ・親しむ・遊ぶ」を行いました。

午前中は、「探る」「学ぶ」「親しむ」「遊ぶ」の4つのコースに分かれて「石狩川水系フィールドワーク」を楽しみ、午後からは7月にオープンしたばかりの旭川市科学館に移動し、「石狩川の魅力を考えるフォーラム」を行いました。



石狩川水系フィールドワーク

探るコース
秋月橋から新神楽橋までの約10kmの河川敷を歩き、運動公園や整備された護岸など、河川敷の利用状況を確認しながら、河川空間がどのように私達の生活に結びついているかを探索しました。

学ぶコース
忠別川のほとりで、ヤナギなどの植物観察を行いました。河畔林の多くを形成するヤナギは、じつはその種類が10種近くもあることや、春に運ばれる土砂がなければ生まれ変わらないことなど、河畔林がどのように形成されるのかについて学びました。

親しむコース
美瑛川河畔でネイチャーゲームをしました。ネイチャーゲームは、自然体験や環境教育の面から注目を集めていて、今回は、昆虫の擬態を学ぶクイズや、川の音を聞いたり草木にふれるゲームなどで、河畔林に親しみました。

遊ぶコース
子どもが主役になり、男の子と女の子と一緒にパンを焼いたり、重さ24kgもある豚の枝肉を何時間もかけて丸焼きにしました。かまども川原の石や木の枝を使って自分たちで作り、高校生がナイフの使い方などを小さな子どもに教えていました。あーおいしかった～。

北の夏一日どっぴり石狩川

探る・学ぶ・親しむ・遊ぶ

☆あさひかわ自然共生ネットワークとは？

旭川市を中心に自然や環境をテーマにして活動している20の市民団体などの集まりで、お互いの情報交換や交流、協力などを通して、自然と共生するまちづくりをめざしています。



パンを焼いたり、豚の丸焼きのためのかまどづくり



川を間近に感じたひととき

石狩川の魅力を考えるフォーラム

北海道大学名誉教授の石城健吉さんをお招きして、川とは何か、また、人どのように川とつき合っていくべきか、などについてお話を伺いました。

また、北海道スポーツフィッシング協会やアイヌ語講師の方など、地元の人に聞かされた深い方々から、子どもの頃に遊んだ川の思い出や現在の川への思いなどを語っていただきながら、参加者みんなで川について考えました。



渡船の終焉と、これからの船の活用

今年10月、道内唯一残っていた美浦渡船の運航が休止しました。渡船は、岸と岸、まちとまち、そして川と人をつなぐ川文化そのものでした。

石狩川のおもな渡船場



橋がない時代の渡船の役割

渡船のはじまりははっきりしませんが、松浦武四郎の「西蝦夷日誌 五編」には、渡賃をとらないかわりに検問をしていたと書かれています。奉行所直轄になると、検問がないかわりに一人50文の渡賃をとりました。

「サツポロ越新道」が開削されると豊平川に渡船も含めた通行屋がおかれ、管理した志村鉄一は札幌初の和入定住者といわれます。開拓があまり進んでなかった頃は渡し守が最初の定住者になることが少なくありませんでした。

美浦渡船。いつの日かふたたびこの勇姿を(浦白町晩生内~美瑛市中村)

石狩川は蛇行が激しく、橋をかけても流されるため、川を横断する渡船は重要な交通と輸送手段で、石狩川と支流にはたくさん渡船場がありました。渡船場は個人や町な

ど運営形態もいろいろで、船には買い物や通院、通勤・通学の人々はもちろん、馬や自転車も乗せました。船大工も渡船文化を象徴する職業で、高給取りでした。冬は川を凍らせ、渡賃をとって渡らせました(氷橋)。

しかし、架橋技術が発達すると、渡船はつきつきと姿を消しました。



氷の上にヤナギの枝を敷き、雪をのせ凍らせた氷橋。両側には目印の棒 ※出典「いしかり渡船物語」石狩町郷土研究会

そのまち、そのまちを語る渡船

渡船は人々の暮らしや歴史をも映し出します。

石狩川渡船場は、石狩川河口に最も近く、江戸末期から利用されてきました。昭和28年に札幌―留萌間が国道231号になり、北海道開発局が管理する全国でも珍しい国営渡船場に。大きなフェリーポートから、馬車やトラック、車等を積んだ大型の船が、冬は氷をわって渡しました。夏には厚田村への海水浴客でこつた返すほどでしたが、石狩河口橋が開通すると利用者は減少、昭和53年、思い出も運んだ渡船は廃止されました。

明治27年(1894年)に武田重兵衛が始めた重兵衛渡船は、江別市街と石狩川をはさんだ対岸とを結びましたが、明治37年の大水害で農家が甚大な被害を受けると、当別・新篠津方面と重兵衛渡船との連絡道路が建設され、下流の対岸渡しと並ぶ交通の要衝に。対岸渡しは石狩大橋の架橋で廃止されましたが、重兵衛渡船は昭和46年までつぎましました。遊泳客を真夏の減水時にできる広い砂浜まで渡したり、水泳講習も行われました。現在、この近くには美原大橋が架かっています。

渡船の歴史を語り継ぎ、つぎの時代の船の活用を探る



調査船・弁天丸を使った茨戸川と石狩川の環境学習

石狩川での船の活用

美浦渡船は大正5年にはじまり、浦臼町と美唄市をむすびました。美浦大橋の建設が進んでも存続を望む声が続かず、美浦渡船は観光や学習に活用されましたが、財政改革により休止。浦臼町では再開の道を今後も探るそうです。

現在、石狩川流域では、手漕ぎ式Eポートをつかった大会や流域交流事業が行われています。また、北海道開発局石狩川開発建設部所有の調査船・弁天丸は、小学校の総合学習の時間の中で大活躍しています。かつての江別港付近には「江別河川防災ステーション」が建設され、外輪船、上川丸のレプリカが展示されるなど舟運の歴史を伝え、屋外の船着場は平常時はレジャーや教育に利用されています。交通や輸送の役割を終えたいま、船は新たな時代の川と人をつなぐ道具として、その活用が期待されています。



石狩川流域交流フェスタ(夕張川と石狩川合流点)



昭和42年頃の美浦渡船 ※出典「浦臼町百年史」浦臼町

イサム・ノグチを魅了したモエレ沼の環境と機能

故イサム・ノグチの最大にして最後の作品で、世界中から注目される189haを誇るモエレ沼公園が、今年グランドオープンしました。そもそも世界的彫刻家は、なぜモエレ沼を選んだのでしょうか――



旧豊平川の三日月湖・モエレ沼とガラスのピラミッド

モエレ沼は、豊平川の切り替えによって残された三日月湖で、公園部分はゴミの埋立地でした。モエレ沼が位置する札幌市北部は伏龍川総合治水対策事業が進められ、遊水機能を持ったモエレ沼は本格的な遊水地として、貯水容量を拡大して整備されています。洪水時は川の水の一部を大量に貯め込み、その後ゆっくりと川へ戻す、洪水対策の主要事業です。

来札したノグチは、札幌市が進める公園事業の3つの候補地の中から、モエレ沼に大きな関心を示します。市が当初考えていた、公園内の小川の計画図を見たノグチは、こう言ったといいます。

「自然の中で自然のまねごとをしてはだめですね」――

豊平川の名残をとどめる水辺、さえぎるものがない空と大地。ノグチの長年の夢であったプレイグランドがここにはあります。さらに埋立地は自由に地形を変えられ、遊水地の掘削残土も活用できます。「大地の彫刻」という自身の

イサム・ノグチ
日本人の父とアメリカ人の母を持つ彫刻家。既成の概念を越え、彫刻にとどまらず、舞台美術、工芸デザイン、庭園設計など広い分野で活躍。「地球を彫刻した男」と呼ばれる。1988年、モエレ沼公園マスタープラン設計後に逝去。享年84歳。代表作：パリュネスコ本部庭園 他



モエレ沼公園 札幌市東区丘珠町599

集大成となる地との出会いで、イサム・ノグチ最高傑作は生まれたのです。

編集後記

特集は、新たな事業で変わる創成川の変遷を辿りました。札幌市では、「創成川通アンダーパス連続化事業」を進めています。この事業は、市道・創成川通り(石狩街道)が創成川の兩岸にあつて、それぞれに存在する北と南の2箇所のアンダーパスを連続した1本のアンダーパスに改良するもので、都市部の交通量を地下道に導くことで生まれる地上空間が利用できるのだそうです。

創成川は、明治2年に開拓使による札幌本府経営が始まり、開拓が進むにつれ大量の物資輸送の必要性から舟運の便が図られ、工業用水や飲料水、防火用水など人々の生活に密着した川として多目的に利用された歴史があります。

近年、創成川は構造上、人と分断された時期がありました。この事業により川に近づき、川にふれる自然環境が創出されて、川と人とのつながりも復活。生まれ変わった創成川が昔のように住民に親しまれ活用されることと思います。

豊平川の上から下まで大取材!

2005年(子ども)も記者団

平成17年8月10日(水)

札幌市を縦断して流れる豊平川を上流から下流まで、川が生活とどのように結びついているかなどを学ぶため、小学校高学年32人が「子ども記者団」として取材しました。「子ども記者団」は、北海道新聞社と全国各地方新聞社連合会が主催し、石狩川振興財団が活動を全面的にサポートしました。

豊平峡ダムから石狩川合流地点まで、水質を調べたり、川の流量を計算したり、災害救助用



豊平峡ダム
「ぼくはダムに行ったことがなかったので、大きさにびっくりしました。ぼくたちの飲み水は、いろいろな過程を経て、それぞれの家に送られていることがわかりました」



月寒川浸透対策工事
「月寒川工事現場は、記者として、とてもこの先が気になる場所となった。堤防の高さや幅を大きくしたり、堤防にしみこんだ水をスムーズに排水するなど、堤防を丈夫にする工夫がされているらしい。将来、みどりが多くなり、自然の川になるそうだ」



豊平川船着場
「Eポートに乗って残念だと思ふことがあります。人間が捨てたゴミが浮いていたことです。人間は自分の事だけでなく、まわりの生き物のもとも考えて生活していかなければいけないと思いました」
※記者団の原稿をもとに作成

石狩川振興財団の活動報告

音楽で川辺に親しみ、周辺施設をまるごと遊ぶ 第3回川の調べコンサートミニトチ祭り

平成17年8月28日(日) 滝川市川の科学館前庭 学習の池周辺

今年3回目を迎える川の調べコンサートが、晴天の下、水辺を舞台に聴衆約300人を集めて行われました。児童も含めた市民合唱4団体が、この日のために練習を重ねた美しいハーモニイは水辺に響き、周辺は清涼感いっぱい。

また、今年は科学館近くを流れるラウネ川周辺の「川の科学館」はじめ、「ふれ愛の里」「海洋センター」「北電テクニカルセンター」という4つの施設が連携し、「ラウネ川河童・ミン



音楽を通して川辺の気持ち良さにふれたひととき



トチ祭り」も同時開催。おもしろ実験やカヌー教室、そばうち体験等、それぞれの持ち味を活かした体験メニューを提供しました。川の科学館では、館内の池に魚を放し、参加者は歓声をあげながら魚捕りに悪戦苦闘していました。



周辺施設が連携した「ミニトチ祭り」。科学館の魚のつかみ捕りは大好評

ラウネ川周辺施設が連携して、身近なラウネ川に親しみ、自分達が住む地域に関心を持ってもらう新たな試み。連携を広げてラウネ川レジャーを形づくってまいります。

ホームページをリニューアル!

川の最新イベントを随時更新、「川と人」の最新号もダウンロードできます。気軽に遊びにきてください。

http://www.ishikari.or.jp/